綿向山　　人気の山でミニスキー　　登山日 2015.2.15

２月 15 日はくもりの予報、晴れ間を期待したが天気は悪化、山頂からの展望はまったく望めなかった。鈴鹿の山々の展望を期待していたが残念である。予定では竜王山まで縦走して周回する予定であったが表参道をピストンすることに変更した。山スキーが目的であったが積雪はイマイチといったところ。この辺りで登山口からスキーを利用できる日を選定することは難しい。それでも二合目まで登山道に沿って滑り下ることができたので良しとするべきであろう。今回もミニスキーならではの強みを発揮したツアーであった。

ところで、綿向山は人気の山である。登山ブームが拍車をかけている。この日も沢山の登山者に出会った。高齢者の団体が目を引いた。80 代と思われる人も沢山いた。天気が良くなかったので山頂での楽しみはお預けとなったが、みなさん元気に楽しんでいた。そこで、この山の人気の秘密は何なのか考えてみた。

最大の理由は頂上からの景観の良さであろう。他には比較的短時間で登れる 1000m級の山、ブナやコナラなどの植生と樹氷の美しさ、昔からの信仰の山として地元から愛され続けていること、「綿向山を愛する会」の熱心な活動、地元行政の宣伝努力、訪問者へのサービス等々、色々なことが揚げられる。

綿向山の紹介文には『滋賀県蒲生郡日野町北畑にある標高 1,110mの山で鈴鹿国定公園内にあり７世紀頃から山岳信仰の対象として崇拝されている』と記されている。登山ルートは表参道や北参道という名前が付けられており頂上には天穂日命社が祀られた大嵩神社がある。毎年４月 20 日には嶽祭りが執り行われるとのこと。表参堂の七合目は行者コバと呼ばれ行者堂が祀られている。信仰との繋がりが深いことが分かる。

山名の由来を調べると、『かつては日野蚕種・日野絹の名で知られた養蚕地域であったが養蚕は衰退した。「わたむき」は「わたつむぎ」から転化したといわれ、山麓の日野町にある蚕の祖神を祀る綿向神社の神体山として古くから山岳信仰の対象とされてきた。』と記されていた。

安全面にも配慮している。表参道の三合目には屋根付の休憩舎があり五合目には瀟洒な避難小屋が整備されている。調べるほどに綿向山が日野町のふるさとの山、神の山として崇められ愛されている姿を見て取れる。日野町では平成８年に綿向山を標高に因み 11 月 10 日を「綿向山の日」として制定している。自然と共生することの大切さを学び恵まれた自然環境を後世に伝えていこうという取り組みは有意義である。

登山という行為だけでなく自然観察や学術的な生態観察、地質学的に貴重な「接触変質地帯」なども存在する。調べるほどに綿向山への興味は尽きない。エールを送りたい山の一つである。リピーターも多いことであろう。

五合目小屋　　積雪が豊富になる

七合目

山頂は寒かった